
六町あづま保育園

令和5（2023）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を増進するための努力を続ける。 2)子どもにとって、保育園が安心と安らぎの場であるよう改善に努める。 3)養護と教育のバランスを図り、保育士が専門性を発揮することにより子どもに生きる力を育む。 4)長期的な見通しをもって、発達段階に応じた最もふさわしい保育を常に心がける。 5)保育園がもつ専門的な知識と技術を生かして、家庭・地域の子育てについて積極的に支援を行う。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ただ単に子どもが好きだけでなく、専門職として保育技術を高めようと常に努力する人材を求めている。また、人格、識見ともに、他の職員と共に高め合えるような人間関係を築ける責任感と協調性のある人材を求めている。職歴に応じた力を発揮し、園全体のことを考えて自分の役割を自覚し責任を果たせる人材であること。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 保育士も教育職であることを自覚し、常に学ぶ姿勢を忘れず児童福祉のために貢献できるよう努力すること。保育士が専門職であることが社会的にも認められるようプロとして自覚ある行動をとること。子ども、保護者の幸せのために親身になってかわり、ともに子どもの成長を喜べること。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「マニュアル・プログラム部会」が中心となり長年の保育のまとめを参考に、子どもの発達やクラスカラーに合わせた日課をつくっています
	内容	日々の保育については、マニュアル・プログラム部会が中心となって各内容を精査した手引きに沿って日課を提供しています。年齢別に提供のタイミング、子どもの成長の目安なども落とし込み、季節感や生活習慣の習得に合わせて適切な時期に導入しています。プログラム(日課)は「手先、指先」「発語、喃語、言葉」「造形遊び」「音楽」など多岐に渡っていることから、月案、週案の立案の際にも参考にすることで、子どもの成長に合わせて必要な支援を提供しています。長年の保育の積み重ねを見える化して、毎年確実な成長を引き出しています。
2	タイトル	0～5歳児クラスの全園児に毎月4回「個別指導計画、児童票」を作成して、一人ひとりの成長過程を共有して保育に関わっています
	内容	0～5歳児の全園児に対して毎月4回、「個別指導計画・児童票」を作成して、子どもの姿、援助を通じての反応、変化について記録に残しています。毎月の個人目標や具体的援助方法については、子ども一人ひとりの成長過程に合わせた支援方法を職員間で共有して、その内容を目標に落とし込み、園として統一した援助を継続していくことで、確実な成長を引き出しています。毎月、支援内容の評価を実施して、反省点は次月の目標、課題として残していくことで、苦手なところは時間をかけて子どもの成長に合わせてゆっくりと支援しています。
3	タイトル	小学校入学に向けて、学校訪問や園内での係活動、数、文字プログラムなどを通して、入学後も自信を持てるよう支援しています
	内容	近隣の小学校とは、給食体験の際に校内探検、在校生とゲームをして交流をするなど、入学に対する不安を軽減できるよう支援しています。園内活動では3歳児クラスから日直活動を始めており、責任を持って成し遂げることで自信を持てるよう働きかけています。数、文字プログラムに沿って、3歳児クラスから保育室内にポスターを貼る、遊びの中に取り入れるなど、少しずつ数や文字に触れる機会を増やしています。5歳児クラスは習字、午睡が無くなる年明け頃より机上の活動時間を設けていくことで、自信を持って小学校に入学できるよう支援しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の業務負担軽減のため、職員にも力も借り、業務全般の見直し、重複書類の簡素化、書式の改善などを進めることをおすすめします
	内容	園では中長期計画で、保護者との連携の向上、事務処理の仕事が多い職員の業務負担軽減を目指し、保育アプリの導入を進める計画です。速やかにIT化を進めることを期待します。それら検討の際には、散歩マニュアルの見直しで実施したように、部会、委員会などの方式で、職員にも力を発揮してもらい、業務全般の見直し、法令遵守を前提にした重複書類の簡素化、書式の改善を進めることをおすすめします。また、使用する用紙やファイルを全てA4に統一するなど、規格も揃えると書庫にしまう時にも整理しやすくなります。
2	タイトル	一人ひとりの課題や受講すべき研修、OJT、自己啓発などを明示し、計画的、目的意識的に職員の育成を進めることを期待します
	内容	年間で全職員が2回以上の外部研修を受けることを目標にするなど研修に旺盛に取り組み、全員が2回以上の外部研修を受講しています。しかし、職員ごとの育成計画がないので作成に期待します。子どもの個別指導計画があるように、職員も成長過程にあり、理念に沿った保育に関する知識や技術はまちまちで、それぞれに課題があります。個別の育成計画で、理念や担当クラスの課題に沿って指導する上での一人ひとりの課題や受講すべき研修や必要なOJT、自己啓発などを明示し、計画的、目的意識的に職員の育成を進めることを期待します。
3	タイトル	業務継続計画(BCP)は職員や保護者に周知し、いざという時にスムーズな対応ができるようにすることを期待します
	内容	園では地震、感染症の「業務継続計画」(BCP)を策定しています。しかし、作ったばかりで、いずれも職員や保護者、関係機関には周知に至っていません。まずは職員や保護者に周知し、いざという時にスムーズな対応ができるようにすることを期待します。また園のBCPには事業再開の基準は書かれていますが、さらに明確にすることを期待します。さらに災害などでは担当すべき職員が事故に巻き込まれたり、交通事情で園にたどりつけない場合もあります。各項目における職員の指揮権限の複数担当者名や優先順位を明確にするとよいでしょう。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル①	委員会・部会活動により職務充実・職務拡大に取り組み、職員の意欲向上に繋がっています	
内容①	園では委員会や部会活動に取り組んでいます。委員会は全クラスで必要な取り組みを担います。子どもの人権委員会は子どもの人格が尊重されているかを確認します。その他の委員会では給食委員会、防災委員会があります。部会は特定の分野の取り組みを深められるよう活動しています。プログラム・マニュアル部会では、昨年度散歩マニュアルの見直しを行い、安全に配慮した戸外活動に繋がっています。その他、運動遊び部会、年齢別製作部会も設置しています。委員会・部会活動により職務充実・職務拡大に取り組み、職員の意欲向上に繋がっています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	習字、製作、絵本など多様な活動を提供して子どもの興味、関心を広げています	
内容②	園で提供している日課については、園開設以来、興味・関心、発達の過程、提供の方法、タイミングなど総合的な視点を積み重ねたものをプログラム化して活動の手引きとして活用しています。製作、絵本においても年齢ごとの参考内容、季節や生活習慣との連動性があるプログラムを参考にして毎年の子どもに合わせて担任職員が導入しています。5歳児クラスでは毎週習字の時間を設けて、形、払い、書き順など様々な事を意識しながら取り組む姿勢が見られています。座っていることの練習にもなり、小学校への接続にも良い効果を生み出しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	食育計画を作成して年齢に応じた学びや体験を提供し、興味を引き出しています	
内容③	年間を通して作成した食育計画には、園目標、年齢ごとの目標に沿った食に関する学び、マナー、落ち着いて食べることができる環境設定などの内容を落とし込んで、食への興味を引き出しています。調理室見学では、給食ができるまでの過程や、作ってくれる人の顔を知ることにより感謝の気持ちが生まれるなど、実際に知る、見るなどの体験を大切にしています。行事や誕生日会では、子どもたちが好きな献立を提供して食べる楽しさを知ってもらうと共に、食と健康についての学び、食事の大切さを知ることによって食べようという気持ちを引き出しています。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえ て意思決定し、その内容を関係者に周知している		
	評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリー1の講評		
	理念等は職員には全職員会議で、保護者には入園説明会、保護者で周知しています 園の理念、基本方針を入園のしおり(重要事項説明書)に記載し、職員にも配付し周知しています。毎年3月の土曜日に行う全職員会議で、年間指導計画を確認する際にも理念や基本方針に立ち返っています。新入園児の保護者には、入園説明会で入園のしおりを使って園の保育のオリエンテーションを行う中で理念などを周知しています。1～5歳児の保護者には毎年4月に行う保護者会で指導計画の概要を含む、理念などを説明しています。理念、保育目標は事務室、各保育室に掲示し、職員、保護者が確認できるようにしています。 園長は対外的に園を代表し、主任と連携して園内業務を担い園運営をリードしています 園の運営規程、入園のしおりに、園長は園の業務を統括し、主任は園長を補佐し、保育士の指導に責任を負うことが明記されています。園長は区との連絡窓口を担い、区の私立保育園連合会の会議に毎月出席するなど対外的に園を代表しています。園内業務では、法人との調整や保護者対応の責任を持ち、職員会議、リーダー会議、給食会議などの会議に出席しており、主任と連携して園内運営に責任を持っています。事業計画、毎年の園運営の体制づくりや事業報告を策定し、園の収支管理にも責任を負うなど、リーダーシップを発揮しています。 重要な案件はリーダー会議、職員、保護者の意見や要望を踏まえ決定しています 園運営に関する重要な案件は、職員や保護者の意見を勘案し、リーダー会議で相談の上、園長が決定する流れになっています。事業計画や事業報告の場合は園長が園内外の情報や職員の意見を勘案して案を作成し、法人の承認の上、職員会議で周知します。クラス担任など人事は、職員の希望やリーダー会議の意見を踏まえ、園長が決定し、年度末の職員会議で発表し、保護者には園内掲示で知らせています。園長は遊具や絵本などの導入の際には、リーダー会議の意見も踏まえ、特に問題がなく、予算の範囲内であれば職員の要望を尊重して決裁しています。		

2	カテゴリー2		
	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
	サブカテゴリー1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			6／6
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		
	評点(〇〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当	
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当	
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当	
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当	
サブカテゴリー2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
		5／5	
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当	
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当	
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当	
カテゴリー2の講評			
保護者、職員、行政などから内外環境を把握し、園の課題を抽出しています 行事アンケート、連絡帳、日頃の会話から保護者の意向を把握し、コロナ禍で園庭でクラスごとに行っていた運動会を今年は小学校の校庭を借り全クラス一緒に運動会を開催するなどサービスを改善しています。職員からの意見も運営に反映しており、運動会のプログラムを簡素化するという意見を取り入れ、職員の負担を軽減しています。また、区の家庭的保育者から園の行事に参加したいとの声を把握しています。区からは保育士確保の厳しい環境を把握しています。把握した情報から、育児相談や園のIT化などの課題を抽出しています。 2023年からの5年間の中長期計画に基づいた事業計画を策定しています 2023年度から2027年度までの5年間の「中・長期計画書」(中長期計画)を策定し、園舎の建替え、子育て支援、IT化の推進などを計画しています。中長期計画に基づき、年度の事業計画を策定しています。建替えまでの間の園舎内外の修繕の実施、保護者支援、幼保小連携、地域の人たちとの交流などを柱に、中長期計画や抽出した課題を事業計画に具体化しています。法人が作成した財務諸表「資金収支予算管理表」に基づき、園長が計画に必要な予算案を作成し法人の決裁を受けます。絵本や玩具などの少額なものは園長に決裁権があります。 園務分掌に基づき、委員会、部会、担当を全職員で担い、計画を確実に実践しています 計画は「保育園・園務分掌」に基づき全職員が役割を担って推進しています。園務分掌には行事、誕生会、職員会議の持ち回りなどの各担当の他、組織横断的な子どもの人権、給食、防災の各委員会、特定の課題に対応するプログラム・マニュアル、運動遊び、年齢別製作の各部会に全職員を配置しており、職員の創意や工夫を引き出しています。人材確保では実習生からの採用を目標に取り組んでいます。研修は全職員が年2回外部研修が受講すること、実習生を毎年3名以上受け入れることなど、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示して取り組んでいます。			

	カテゴリー3の講評
	不適切保育チェックリストで、職員が自らの保育を自己チェックしています 法令遵守では、園の運営規程や就業規則の服務の欄に守秘義務、虐待防止、権利擁護などについて明記されており、これを使って職員に周知しています。保育関連機関の不適切保育チェックリストで、否定的な言葉を使うなどの不適切な保育になっていないか、職員が自己チェックを行っています。職員会議などで他施設の不適切事例などを共有し、法令、規範を守るよう確認しています。苦情解決制度は入園のしおりに掲載し、玄関にも掲載して周知しています。苦情があった場合は苦情処理記録簿に記載の上、解決に向けて取り組んでいます。 職員は、虐待の4類型や発見のポイントなどを学び虐待防止に取り組んでいます 園では様々な部会、委員会があり、その内に一つ、人権委員会では日常保育が人権の観点から、子どもへのよりよい関わりのポイントや、日常保育が適切に行われているかを話し合い、適切な言葉がけなど改善に繋げています。虐待対応マニュアルには虐待の4類型や虐待の発見ポイントについて明記され、職員会議などで周知・確認しています。また、虐待が疑われる場合は、職員は主任、園長に連絡し園長から区の子ども支援センターなど関係機関と連携できるよう体制を整えています。さらに運営法人にも報告し、組織的に虐待防止に取り組んでいます。 地域の子育て親子などの育児相談を行うなど、地域との関係づくりに取り組んでいます 園の育児相談について地域の地区センターの掲示板に掲示してもらったり、園の掲示板に園の取り組みを掲示したり、第三者評価を3年ごとに受審するなど透明性の高い組織です。園では実習生の受け入れマニュアルとカリキュラムなども兼ねた毎年度「保育実習計画」を作成し、主任補佐を担当として実習生を積極的に受け入れています。また主任を担当者として職場体験のしおりを作り、ボランティアも受け入れています。園では区の幼保小連携活動に積極的に取り組み、要保護児童対策地域協議会にも参加し、地域の虐待防止に協働して取り組んでいます。

4	カテゴリー4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー1(4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4／5
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
	評点(○○○○●)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
	●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
	●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当	
	サブカテゴリー2(4-2)		
	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4／4
	評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
	評点(○○○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
	●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
	●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
	カテゴリー4の講評		
	園のリスクを洗い出し、優先順位をつけて対応策を明確にしています 園は水害、自然災害(地震)、事故、感染症、不審者などのリスクを洗い出し、水害、地震、感染症の順番で優先順位をつけました。水害は「洪水、内水、土砂災害、津波等避難確保計画」で対策を明確にし、地震、感染症に対しては「業務継続計画」(BCP)を策定し対策を明らかにしています。しかし、これらは、いずれも職員や保護者、関係機関には周知に至っておらず、速やかな周知を期待します。またBCPには各項目における職員の指揮権限の優先順位や事業再開の判断基準が必ずしも明確でないため、明示することを期待します。 安全保育マニュアルや散歩マニュアルに基づき事故が起こらないよう対策を行っています 園では安全保育や散歩のマニュアルに基づき、リスクのある場所や状況、注意すべき点を職員に周知し事故が起こらないよう対策を行っています。事故発生の場合、医療機関にかかった場合には事故対応連絡票に、医療機関にかかる必要のない場合は事故報告書、軽微な場合はヒヤリハット報告書に記録します。事故後、けがの対応や保護者への連絡を行い、カンファレンス(職員会議)を行い、原因を究明し再発防止策を明確にします。報告書の統計は看護師が集計し分析の上、その特徴を職員会議に報告し、事故の再発防止、予防に生かしています。 運営規程に文書の保存や利用、保管、廃棄について規定し、経営情報を管理しています 情報の収集、利用、保管(保存期間)、廃棄については、運営規程の「文書の取扱い」「文書の管理」の項目に規定し管理しています。経営情報は鍵付きの書棚に保管し、職員は必要なときに使えるようになっています。園長と主任のパソコンは個別のID、パスワードで管理され、一般職員のものとは別に管理されています。職員パソコンには個人情報は保管しないルールにしています。使用しないパソコンは鍵付きの書棚に保管しています。園の個人情報保護方針には、個人情報の利用目的や開示請求に対応することが明示されています。		

5			カテゴリー5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリー1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している ○ 非該当 ●あり ○なし 2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる ○ 非該当				
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている ○ 非該当 ●あり ○なし 2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している ○ 非該当				
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している ○ 非該当 ○あり ●なし 2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している ○ 非該当 ○あり ●なし 3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している ○ 非該当 ●あり ○なし 4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている ○ 非該当				
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている ○ 非該当 ●あり ○なし 2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる ○ 非該当 ●あり ○なし 3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる ○ 非該当 ●あり ○なし 4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている ○ 非該当				
サブカテゴリー2(5-2)				
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している ○ 非該当 ●あり ○なし 2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている ○ 非該当 ●あり ○なし 3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる ○ 非該当				

	カテゴリー5の講評
	職員の出身校の担当者との結びつきや実習生への丁寧な指導で就職に結びつけています 人材確保策では実習生からの採用を重視し、指導を懇切丁寧に行い、園への就職に結びつけています。また、職員の出身校の担当者との結びつきを大切にするなど工夫をしています。ホームページ、採用サイト、専門学校への求人票送付を行い職員を確保しています。採用後は乳児、幼児、接続期(5歳)を担当してもらい、リーダーへと育成しています。キャリアパスは、園の仕事等級基準書の3つのレベルとレベルごとの2つのランク、合計6つのランク別に経験、技術などの必要条件を職員に示し、キャリアアップ研修の対象者には個別に参加を促しています。 全職員が年間2回以上の外部研修を受講するなど研修に積極的に取り組んでいます 年度を通し、全職員が2回以上の外部研修を受けることを目標にし、実際に全員が2回以上の外部研修を受講していますが、個人別の育成計画がないので、作成することをおすすめします。非常勤職員も含めた園内研修では、感染症の嘔吐処理や朝から夕までのルーチン業務のマニュアルの習得を実施しています。職員は研修受講後、研修報告書を提出します。またその内容は回覧して共有します。主任には主任研修の受講を促したり、会議運営など園長業務を経験させたり、指導力が身に付くよう配慮しています。 園内で委員会や部会活動による職務充実を図り、モチベーション向上に取り組んでいます 給与は社会福祉協議会の等級制度に準じ、勤続年数に基づいた給与体系になっています。委員会や部会活動で職務の充実を図り、モチベーション向上にも取り組んでいます。園に貢献してくれた職員には、園長面接で称賛しています。労務管理は園長が把握し、時間外勤務は発生しないようにし、発生した場合は特定の職員に偏らないようにしています。有給休暇の管理も公平になるようにするほか、子育てをしている職員に配慮しています。区の制度を利用し、勤続5年、10年の表彰を行っています。年度末には歓送迎会も行い職員間の交流を進めています。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
2022年度は、他の園での子どもの見失い事故の発生を教訓にし、当園の散歩をより安全に実施するために、散歩マニュアルの見直しを行いました。0歳から5歳までの各クラスから1名ずつの担当からなる、プログラム・マニュアル部会で散歩マニュアルの見直しをテーマに検討を重ねました。2つの公園までの各道のりを実践し、「横断歩道の左側は死角があるので、安全確認が必要」など、危険箇所や子どもを見失うリスクがある場所などを特定し、写真を撮りました。実践の結果をコースごとに写真入りでまとめたものを一つのファイルにし、それをもとに、新たに散歩ファイルを作成しました。取り組みの反省では、地図の道路上に危険箇所が写真入りで掲載されて、非常に分かりやすく、使いやすいとの意見が出され、各クラスからも冊子が欲しいなどの意見が出されました。また各クラスでは実際に新しいマニュアルを使って散歩の際に検証しています。まとめとして、この取り組みの当初の目標は達成され、今後も他のマニュアルの見直しを行うことなどが話され、今年度は事故防止マニュアルの改定に繋げることにしました。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
この取り組みは「マニュアルの見直し」という、見直しが目標の取り組みでしたが、写真などを取り入れたビジュアル化したマニュアルは分かりやすく、今後も様々な取り組みに生かしたいなどの声が職員から出されました。また、一つの公園に行くルートにも、これまで使っていないルートを含め複数あり、実際に歩いてみると、以前は工事で使えなかった道が今は使えるようになっており、「マニュアルは絶えずアップデートすることの大切さが分かった」などの声も出されました。子どもたちも今まで行ったことのある公園でも、異なるルートを歩くことで、まわりの景色に興味を惹かれるなど、より楽しさが膨らんだ様子でした。	

評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 2022年度はコロナ禍のため、運動会、発表会は保護者の参加をお断りしていましたが、保護者の意見も踏まえ、もう少し保護者が子どもの成長を感じられる形にしたいとリーダー会議、職員会議で話し合いました。その結果、運動会は2、3歳児の各クラスと4、5歳児の各クラスのと2部構成にして園庭で行いました。発表会はクラスごとに行い、0、1歳児は表現あそび、2歳児はねずみのよめいり、3歳児はオズのまほうつかい、4歳児は11ぴきのねことぶた、5歳児はピノキオものがたりを披露しました。保護者の出席は一家族2名とし、座席は抽選としました。行事アンケートでは保護者の多くが満足しており、座席についても「落ち着いて見ることができた」と好評でした。行事の反省では、コロナ禍でも子どもが楽しむことができ、保護者も成長を感じられるよう、今後も工夫していくことが話し合われました。また、行事の時間を短くするなど子どもの負担を軽減し、子どもが疲れることなく、主体的に楽しめるようにすることも話し合われました。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 昨年度の反省を踏まえ、コロナ禍も落ち着いてきたことで、今年度の運動会は小学校の校庭を借り、全クラス一緒に、保護者の参加の制限を取り払って、コロナ前の規模で取り組みました。ただし、昨年度の反省から子どもの負担を軽減させるため、プログラムの簡素化と時間の短縮に取り組んでいます。大玉転がし競争では、子どもの競争と大人同士の競争は別々に行っていましたが、4、5歳児の親子で転がす競争にするなど、プログラムを簡素化し全体の時間を短くするなど子どもの負担を軽減しました。この取り組みを通じ、保育士の子どもへの関わり方にも変化が見られました。5歳児の発表会の劇では、配役を立候補で決めるなど、子どもの主体的な力をどのように引き出し、伸ばすのかなど、保育士の成長する姿が見られるようになっていきます。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4／4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
	◎あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当
	サブカテゴリー1の講評		
パンフレット、ホームページにて園の保育内容、姿勢について分かりやすく伝えています パンフレットには園の概要に加えて、保育方針、保育目標、定員、行事、一日の生活のタイムテーブルなどを掲載して、主に入園希望者に配付しています。ホームページには園舎の写真や保育中の子どもの様子を掲載して、見た目にも分かりやすく伝える工夫をしています。ホームページに法人のシンボルマークに込めた保育への思いを紹介して、子どもや保護者と心の交流を図り、信頼関係のもと子どもたちに豊かな心と生きる力を育めるようにしたいという園の保育についての基本姿勢を伝えて、一緒に子どもを見守っていくことを目指しています。 区と連携を取りながら、地域の人に園の情報を提供しています 区が発行している「保育施設利用申込み案内」には、定員、所在地、開所時間など園の基本情報を掲載して、保育園入園を希望する地域の人に必要な情報が届くよう区と連携しています。毎月の園長会議に出席して、近隣園との連携、地域についての情報収集を行って、地域の人には選ばれる園になれるよう努めています。外国籍の保護者向けには、英語表記のパンフレットを用意したり、英語が話せる職員が対応したりするなど、利用者の特性を考慮して必要な情報を適切に伝えています。 毎年多くの見学希望があり、一人ひとり丁寧な対応を行って園の保育を伝えています 見学希望者は毎年80名程度あり、なるべく多くの方に足を運んでもらえるよう希望に沿って柔軟に対応しています。見学者にはパンフレットを渡して園舎内を案内しながら、質問に丁寧に対応して、入園に向けての疑問、不安感を払拭できるよう努めています。持ち物、延長保育など希望者からの質問が多い内容や個別の対応についても聞き取りをして、園の保育について理解してもらえるよう働きかけています。見学者には、メールや電話などでいつでも質問を受け付けている旨を伝えて、いつでも寄り添える対応を基本としています。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6 / 6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
サービス開始にあたっては面談などを実施して子どもに関する情報を把握しています サービスの開始にあたっては健康診断時に説明会を実施して、集団生活を送る上での基本的なルール、登園の際に医師の診断書が必要な疾病、入園までに揃える準備物などについて伝えています。入園前面談では「生活状況調査表」に記入してもらった内容に沿って、さらに詳細な部分を保護者から聞き取り、「入園時個人面談記録」に記録しています。保護者からの要望、配慮点についても把握して、入園後の環境設定や関わり方の参考にしています。面談内容はその日のうちに会議で共有して、職員間で統一した支援に繋がっています。 家庭の状況に合わせ準備(慣れ)保育を提供し、環境に馴染めるよう配慮しています 子どもが新しい環境に少しずつ慣れていくことで負担を軽減できるように、入園時の個別面談で保護者の就労状況や希望期間を聞き取り、期間を決定しています。特に希望がない場合には、最初は1時間半程度の滞在から始めて給食まで、午睡まで、おやつまでと滞在時間を延ばしていくことで、子どものストレス軽減が図れるようにしています。降園時に子どもの様子について保護者に丁寧に伝えて、子どもや保護者に不安な様子が見られた場合には、翌日の予定についても臨機応変に変更して、無理なく園生活を送れるよう支援しています。 小学校入学に向けて小学校と連携を取りながら不安軽減に繋がるよう支援しています 入学先の小学校に児童保育要録を提出して、保育園での配慮点、支援を継続できるよう働きかけています。地域のブロック会議に出席して、小学校から情報を得られるようにしたり、入学までに身に付けておきたいことは保育の中に取り入れたりするなど、常にアンテナを張って就学に向けた準備をしています。小学校に職員が見学に行く、小学校の教諭が園へ研修に来るなど、職員同士も交流を通して相互理解を図り、子どもへの必要な支援に繋がっています。また、保護者と個人面談などを実施して、不安軽減が図れるよう努めています。			

サブカテゴリー3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 13／13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当
サブカテゴリー3の講評		
毎月4回「個別指導計画・児童票」を作成して子ども一人ひとりの育ちを把握しています 毎月4回「個別指導計画・児童票」を全園児を対象に作成して、一人ひとりの成長過程を丁寧に把握できる体制を整えています。毎月の様子をきめ細かく記録して、個々の成長に合わせた支援の提供に繋がっています。0～2歳児クラスまではさらに「生活表」も併用して、日々の保育中の様子を記録することで、個々の特性を把握した上で職員間で統一した支援を提供しています。苦手なことは遊びの中に取り入れる、声かけの仕方を工夫するなど、一人ひとりにおける配慮点を職員が意識することで、子どもの成長を促しています。 全体的な計画を基に年間指導計画など各種計画を連動させて日々の保育を提供しています 全体的な計画は、毎年度末にリーダー会議で見直しについて話し合いの場を設けて、子どもの姿に合わせた内容に更新しています。全体的な計画を基に、年間指導計画、月間指導計画など各種計画を展開することで、園が目指す保育を日々提供しています。年間指導計画は年4回、月間指導計画、週指導計画は次案を作成する際に振り返りを行い、子どもの姿についての評価をしています。各種計画の微調整を繰り返し行い、子どもの現状や年齢に合わせた保育を提供しながら、子どもの成長を見守っています。 職員会議、リーダー会議、園内研修などで子どもの情報を職員間で共有しています 職員会議、リーダー会議、給食会議を毎月開催して、各クラスの様子や配慮が必要な子どもなどについて共有しています。クラスミーティングは随時実施して、担任職員間で意見を交換しながら子ども一人ひとりに合わせた保育の提供に繋がっています。研修では担任職員のみではなく、朝、夕の時間に関わる非常勤職員も含めて、配慮が必要な子どもについての対応方法、声かけ、誘導の仕方など成功事例の紹介、様々な場面でどのような反応が見られたかなどを共有し合いながら、園全体でより良い支援を模索しています。		

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5 / 5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)			
評価		標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○ 非該当
サブカテゴリー5の講評			
入園時に、個人情報保護についての基本姿勢を保護者に説明しています 園の個人情報保護に関する基本姿勢は入園のしおりに記載しており、子どもの情報を外部に提供する際には、必要最低限に留めることを保護者に伝えています。外部に子どもの情報を提供する事例として、小学校や転園先の保育園への情報共有があります。その他、医療機関や公的機関を利用する際には、子どもの利益や権利に基づいて利用することを明記して、不利益が生じないよう配慮しています。子どもの写真をホームページなどに使用する際は、保護者の同意を得てから行うこと、公開する範囲を限定して不必要に情報を載せないこととしています。 子どもの羞恥心や自尊心を尊重した保育に向けて、園全体で取り組んでいます 子どもの羞恥心への配慮として、おむつ交換、トイレの失敗などは他の子どもに気が付かれないように配慮しています。5歳児のプール時の着替えは男女別で行っています。自尊心の尊重については、子ども一人ひとりにスポットライトが当たるように、5歳児クラスでは運動会や発表会の始めの言葉、園旗を持って行進するなどクラスを代表することは全員が体験できるようにして、自信につながるよう支援しています。保育者は子どもの話に耳を傾ける、どのような気持ちなのか子どもの立場で考えることで、一人ひとりを尊重した保育につなげています。 虐待防止や育児困難家庭の支援については、園全体で統一した対応をしています 虐待が疑われる場合や、育児困難家庭の支援については、児童相談所、子ども支援センターなど各種行政機関と連携を取りながら、子どもの安全を第一にした対応を園全体で共有しています。クラス担任だけではなく、朝、夕の保育に関わる職員も子どもの様子の変化を見逃さないで、小さなことでも園全体で共有することを会議などで随時確認しています。都や区などの研修に参加した職員は、研修報告書を作成して研修内容を職員会議などで報告して、最新の情報や対応方法、事例について園内で検証、考察して適切に対応していけるよう努めています。			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5 / 5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評		
マニュアル部会を中心に毎年各種マニュアルの点検、見直し、再編成を実施しています 園内研修ではマニュアル部会、運動遊び部会、年齢別製作部会を設置して、それぞれの分野について専門性を深めていける体制を整えています。マニュアル部会では昨年度、散歩マニュアルの見直しに着手して、散歩コースの設定、危険箇所の共有、人数確認の手順などを再編成して安全に配慮した戸外活動ができるようになりました。今年度は事故防止マニュアルの見直しを進めており、リーダー層を中心に保育室内、園庭における危険箇所の洗い出しを行い、あらかじめ予測できることは人的配置などで事故を未然に防いでいけるよう目指しています。 子どもの人権委員会を設置して、不適切保育などを未然に防げる体制作りをしています サービスの基本事項や手順については毎年見直しを実施して、時代の流れ、他園や世間でのニュースなども考慮しながら最新の情報を落とし込んでマニュアルを整備しています。園内委員会では「子どもの人権委員会」が設置されており、子ども一人ひとりの人格を尊重しているか、物事を強要する言葉かけをしていないか、罰を与えていないか、差別的な関わりになっていないか確認しています。常勤、非常勤と勤務形態に合わせた人権チェックリストを園独自で作成して、毎年定期的に確認を実施して、職員の意識、保育の質を高めていける環境が整っています。 保護者や職員の意見を反映させて、より良いサービスの提供に繋がるよう努めています 保護者には行事の後にアンケートを実施して、意見や感想を聞く機会を確保しています。保護者からは概ね好意的な意見が寄せられることが多いですが、提案や改善の要望が出された際には会議などで共有して、園としての対応を検討しています。保護者にはこれまでの経緯を説明したり、要望に応えられない場合には園の考えを丁寧に説明したりすることで、保護者の理解を得られるよう努めています。職員も会議や各部会の中で自分の意見を発表できる場を確保しており、主体的に保育に関わることでレベルアップを図ることができる環境となっています。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	36／36
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当
	●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
	●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
	●あり ○なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当
評価項目1の講評			
子ども一人ひとりについて毎月4回個別指導計画に発達の段階を記録して把握しています 0歳児から5歳児の全クラスの子どもの対象に、毎月4回「個別指導計画・児童票」に健康、人間関係など5領域を踏まえた子どもの姿、援助を通しての反応、変化について記録をしています。子どもの様子を毎月4回丁寧に記録することで、微細な変化や成長の過程を見逃さず、適切な時期に必要な支援を提供しています。毎日の様子については保育日誌に記録して、クラス全体の様子を踏まえて一人ひとりにきめ細やかな支援を提供しています。日誌には園児の姿、職員の自己評価を記載して、反省点を次の日に生かせる保育を行っています。 子どもが主体的に周囲への興味が広がるよう保育室内の環境設定を工夫しています 0、1歳児クラスは保育室内に畳のスペースを作ったり、遊びのスペースをパーティションで区切ったりするなど、安全な場所で遊び込める環境にしています。2歳児クラスからは好きな遊びを好きな場所で遊べるよう、マットなどを活用して遊びのスペースを確保して、集中して遊び込める環境を整えています。遊びの継続性にも配慮しており、次の日も同じ遊びができるように飾っておくことで、子どもの想像力で次々と遊びが展開していけるよう支援しています。0歳児は身近な保育者との信頼関係を築くことで、周囲への関心が広がるよう支援しています。 小学校へスムーズに移行できるよう給食体験などで交流できる機会を確保しています 近隣の小学校とは給食体験の際に、学校見学、在校生とゲームなどで触れ合う機会を設けており、入学に向けて期待感を持ち楽しみにできる機会を確保しています。園内活動では、給食、野菜の水やり、部屋掃除、布団敷きなどの当番活動を取り入れて、自分が何をしなくてはいいか考え、責任感を持って最後までやり遂げることで自信に繋がるよう支援しています。3歳児クラスから号令をかけるなどの日直活動も取り入れており、5歳児クラスは好きな食べ物を人前で発表するなど、自分の気持ちを表現できる機会を設けています。			

2

評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

評価項目2の講評

登園時には子どもの様子を注意深く観察して、体調の変化を見逃さないよう努めています

登園時にはいつもと変わりがないか子どもの様子を注意深く観察して、顔色、声の調子、動き、けががないかなど総合的な視点から体調の変化を見逃さないよう努めています。保護者にも家庭での様子を聞き取って、子どもの日々の体調について共通理解を図っています。前日、体調不良であった場合や、いつもとは違う様子が見られた場合は、保護者に丁寧に聞き取りをして、子どもの様子に合わせて日中の保育内容を考慮したり、牛乳を他のものに変更して提供するなど、保護者の意向を聞き取りながら無理なく過ごせるよう配慮しています。

子ども一人ひとりの発達に合わせて食事、排せつなどの生活習慣の習得を支援しています

子どもの発達状況は保育日誌、週案、月案など各種記録物に残して、職員間で共有しながら保育を提供しています。2歳児クラスまでは、家庭での様子を毎日の連絡帳を通して把握し、家庭と園が連携して子どもの成長を見守っています。離乳食やトイレトレーニングなどを始める際には、まずは子どもの成長にとって適切な時期であるか、興味や関心が向かっているかを踏まえて、家庭と協力しながら進めています。新しいことを始めたり、できなかったことができるようになるのは楽しいと子どもに感じてもらえる支援を基本としています。

降園時にその日の子どもの様子を伝えることで、保護者の安心感に繋がっています

各クラスのホワイトボードにその日の活動内容を記入して、お迎えに来た保護者に子どもの様子を伝えています。保護者が参加しない誕生日会、観劇会などの行事の際には、写真を使用して子どもたちが楽しそうに過ごしている姿を保護者に伝えることで、安心に繋がっています。夕方の時間帯になると担任の職員が対応できない場合も増えてくることから、遅番の職員への申し送り、引継ぎをしっかりと実施して、保護者に子どもの様子を添えて伝えていくことで、より信頼関係を築けるよう園全体で取り組んでいます。

3

評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当

評価項目3の講評

マニュアル・プログラム部会で保育活動を整理し、年齢に合わせた日課を提供しています

「マニュアル・プログラム部会」が中心となって、年齢に合わせた活動内容、提供に適切な時期について、園開設以来の成果を日課として取りまとめています。日々の活動は各日課を目安にしながら、導入のタイミング、活動内容などを考慮しつつ、その年の子どもの姿に合わせて提供することで、発達や年齢に応じた健やかな成長を引き出せる体制が整っています。日課は「手先、指先」「発語、喃語、言葉」「造形遊び」「音楽」など多岐に渡る内容を整備することで、卒園までに目指す子どもの姿に近づけるよう日々の保育を提供しています。

特別な配慮が必要な子どもには個々に合わせた支援を考察して、園内環境を整えています

特別な配慮が必要な子どもについては、区の子ども支援センターと連携を取りながら、保育中の様子から考察した個々に合わせた支援を園全体で共有し、環境を整えています。区が実施している「気づきのしくみ」も活用して、配慮を必要とする子どもがいるクラスは心理士による診断を受けて、必要に合わせて療育などの専門機関に繋がっています。園では研修を受けた職員が「発達支援コーディネーター」として、支援方法などについて職員の意見を取りまとめたり、保護者へ園の様子を伝える際の窓口になるなど、専門性を生かした保育を提供しています。

戸外活動ではお弁当給食、芋ほり遠足など自然を生かした活動を取り入れています

園庭では各クラスが安全に遊べるよう、週案で園庭を使用するクラスを決めてルールを守りながら、子ども同士譲り合う姿が見られています。午睡の後も園庭遊びを楽しめる環境が整っており、外出できる天候の日是一日の中で十分に体を動かすことができる時間を確保しています。近隣には公園が多いことから、年齢や遊具に合わせて散歩先を選び、四季折々の移ろいを保育者と一緒に感じる、自然物や虫を持ち帰るなど、身近な自然を活用しています。芋ほり遠足や園庭でのお弁当給食など、自然を楽しむ行事も取り入れて、健康な体作りを支援しています。

19 / 25

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○ 非該当
	評価項目4の講評		
	行事は日々の保育内容を反映させて、子どもが主体的に参加できるよう支援しています 行事は子どもたちの日常の姿を反映できるよう、遊びの一コマを切り取るなど、職員間で内容について話し合いを重ねて形にしています。今年度のお店屋さんごっこは、子どもたちが考えた手作り品の販売、駄菓子屋さんを実施して、4、5歳児クラスがお店屋さんを交代で担当し、0～3歳児クラスがお客さんとして楽しみました。行事に参加できる保護者は子どもと一緒にお店を回る中で、子ども同士や保育者との関わりを知る機会になりました。駄菓子は成分表の説明を行い、原材料、添加物について学び、食への関心をさらに引き出すことができました。 運動会でのリレー、発表会での合唱、合奏など協力して成し遂げる体験をしています 行事では友達と協力して一つの事を成し遂げていく経験を盛り込むことで、達成感や自信に繋がられるよう支援しています。運動会では3～5歳児クラスが3つのチームに分かれてリレーに取り組む体験を通して、互いを認め合いながら力を合わせてやり遂げられる機会にしています。発表会の劇では配役を立候補で決めており、自分で決めたことは最後まで取り組むことで、自信に繋がるよう働きかけしています。合唱、合奏も披露しており、友達のパートを意識しながら取り組むなど、他者の事も考えて行動できるよう促しています。 行事の前には別途クラスだよりを配付するなど、保護者に取り組みの過程を伝えています 年度初めに年間行事予定を配付し、4月の予定は前年度の3月中にお知らせするなど、保護者に予定を立ててもらいやすいよう配慮しています。行事の前には別途クラスだよりを発行して、行事におけるねらい、目標とともに子ども達の取り組みの様子、見て欲しいところを保護者に伝えています。毎日の送迎時や連絡帳、クラスごとのホワイトボードなどでも取り組みの様子を保護者に丁寧に伝えて、成長している子どもの姿への理解に繋がっています。当日の姿のみではなく、練習過程での様子も保護者と共有できるよう工夫しています。		
5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○ 非該当
		評価項目5の講評	
	保育時間の長い子どもも安心して過ごせるよう保育者の関わりを丁寧にしています 保育時間が長い子どもも無理なく一日を過ごせるように、日中の保育の様子を踏まえて夕方の保育内容を組み立てています。疲れている様子が見られる子どもには、静かな場所で過ごせるよう配慮したり、0、1歳児は畳の上で横になれるようにするなど、自分のペースで過ごせる環境を整えています。午睡後も0～2歳児は2階のテラス、3～5歳児は園庭で遊べる時間を設定するなど、子どもの様子に合わせて活動を提供しています。職員は子どものやりたい遊びを見守るなど、子どもに丁寧に関わることを心がけ、寂しく感じさせない雰囲気作りをしています。 年齢の低い子どもはなるべく自分のクラスで安全に過ごせるよう配慮しています 夕方18時30分から延長保育時間となり、クラスを移動して異年齢保育の時間に移行します。0歳児クラスはいつも同じ保育室で一日を過ごせる環境を整えています。1歳児と2歳児クラスの半分、残りの2歳児クラスと3歳児、4歳児と5歳児クラスは異年齢の関わりの中で、いつもとは違う遊びと一緒に楽しんだり、自分のやりたいことに集中するなど、やりたいことをして過ごせる時間になっています。落ち着いた子どもには、職員と一緒にホールを散歩するなど、気分転換をしながら無理なくお迎えを待てるようにしています。		

6

評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	☐ 非該当

評価項目6の講評

楽しい雰囲気の中で、友だちと食事の時間を楽しめるような環境を整えています

0歳児クラスでは保育者と1対1の食事から始めて、少しずつ人数を増やして食事をしていきます。1、2歳児クラスでは友達や職員と一緒に食事をするを楽しめるよう、マナーを学びながらテーブルを囲んでいます。年齢が上がると友達同士での食事を楽しむことで、より食事の時間が楽しくなる雰囲気作りをしています。最初は定量を盛り付けて、食べ終わったらお代わりを提供していますが、それぞれの食事量に合わせて最初から少なく盛るなどの工夫をして、食べることの喜びを体験して給食を好きになってもらえるよう働きかけています。

毎月の給食会議で各クラスの状況を把握し、より良い献立の提供に努めています

給食会議を毎月実施して各クラスの喫食状況の共有、アレルギー食や離乳食の提供について担当職員間で情報を交換しています。給食は旬の食材を取り入れて、素材の味を生かした味付けにしています。誕生日会、七夕、お月見、クリスマス、節分などの行事に合わせて、献立も習わしや伝統を生かした内容にしたり、飾りつけを凝ったものにして見た目にも華やかにするなどの工夫をしています。本年度は「日本一周おいしいものめぐり」を企画して、地域に根差した献立を取り入れて、子どもたちが食を通して日本各地の文化にも興味が湧くよう支援しています。

0歳児クラスから食育に取り組み、年齢に合わせた学びや体験を提供しています

0歳児クラスから年齢に合わせた食育目標を立案して、子どもの食への興味、関心を引き出しながら、食事のマナー、体の仕組みや栄養について知るなど様々な学びを盛り込んでいます。トマト、ナス、ピーマン、小玉スイカなど夏野菜の栽培、芋ほり体験、小松菜の栽培にも力を入れており、収穫した野菜は給食で提供しています。年齢に合わせて2歳児の頃よりトウモロコシの皮むき、枝豆の鞘取りなどの簡単な手伝いから始めて、スイートポテト、ホットケーキなどのクッキングも取り入れるなど、実際の体験からの学びを大切にしています。

7

評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当

評価項目7の講評

年間保健計画に沿って子どもが健康や安全に関心が持てるよう援助しています

年間保健計画を作成して季節や年齢に応じた配慮事項を盛り込むことで、子どもたちが健康や安全を意識できるよう支援しています。咳エチケットやうがい、歯磨き指導では、紙芝居や絵本を活用して子どもたちに分かりやすく伝えと共、日々の保育の中で繰り返し正しい方法を保育者が見せ、伝えることで習慣化に繋げています。交通安全指導では警察署の指導の下、横断歩道の渡り方、標識の見方などを教えてもらい、散歩に行くときに何度も確認をすることで、子ども自身で安全に配慮しながら戸外活動に取り組むことができるよう働きかけています。

園医や専門機関と連携を取りながら一人ひとりに合わせた適切な対応を行っています

毎月の健康診断の際、園医に発達に心配のある子どもについて相談したり、けがや体調不良の子どもへの対処方法や受診の必要性についてアドバイスを受けてたりして、園医と連携して健康管理に努めています。区の巡回指導の結果を受けて、保育者の関わり方、指示の出し方、気持ちの切り替え方などについて、子ども一人ひとりの特性に合わせて、個性を生かしながら成長を引き出しています。専門機関に通所している子どもについては、保護者や通所先と連携を取りながら、園での支援についても足並みを揃えていけるよう努めています。

保護者には園での健康管理について説明し、連携しながら健康維持に努めています

保護者には入園時に乳幼児突然死症候群の予防として、午睡時の呼吸確認の間隔や保育室内の環境など園の取り組みを説明しています。虫歯予防対策にも力を入れており、区から「いい歯推進園」として表彰されており、6歳臼歯が生える際に歯科衛生士が行う歯磨き指導には、保護者にも参加を呼びかけて家庭と共に虫歯ゼロへの取り組みを行っています。毎月の保健だよりでは、季節に応じて流行する感染症の予防方法、健康な体作りにおける栄養管理、睡眠時間の確保などを伝えて、家庭と協力しながら子どもの健康維持を行っています。

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当
評価項目8の講評			
保護者会、保育参観、行事などでは保護者同士が交流できる機会を設けています 保護者会は毎年4月開催のため、自己紹介に加えて子どものマイブーム、悩み、保護者の好きな事などの話題を提供して、顔なじみの関係性が築きやすいよう援助しています。保育参観は保護者も一緒に活動に入ってもらい、園庭で遊ぶ、ゲームを楽しむなど子どもを介して保護者同士の仲が深まっていく機会にしています。運動会では親子競技と、綱引きなど保護者競技も用意して、子どもの応援を受けながらチームとして団結する姿が見られています。行事は全園児合同で実施することで、他クラスの子どもの成長も感じてもらえるよう配慮しています。 保育公開日を複数設けて、園での子どもの様子について保護者と相互理解を図っています 6月の一泊公開保育、8月の夕涼み会、11月のお店屋さんごっこは保護者も参加して、日頃の保育を体験できる機会にしています。一日公開保育は、自分の都合の良い時間に来園してよい形式にして、保護者が参加しやすいよう配慮しています。9月の敬老の日の会には4、5歳児クラスの祖父母を招待したり、親子給食会は5歳児クラスの保護者が園の給食と一緒に食べたりして、思い出作りをしています。保護者参加の行事を多く設けて、園での子どもの様子、保育者との関わりを知ってもらうことで、信頼に繋げていくことを目指しています。 行事後はアンケートを実施して、園への提案や要望を汲み取っています 運動会、発表会など保護者が参加する行事の後にはアンケートを実施して、園に対する意見や感想、改善点を把握する機会としています。発表会は全クラスの出し物を自由に観覧できる形を取っていましたが、ホールが満席になってしまい自分の子どものクラスの発表を見ることができなかった、との保護者の意見を受けて入れ替え制を導入しました。ホールの定員があることから参観できる人数は1家庭2名までとして、席もあらかじめくじ引きで決めることで、当日の混乱を避けて落ち着いた雰囲気の中、子どもの発表に集中してもらうことができました。			
9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当	
評価項目9の講評			
公園、図書館の利用や高齢者施設のお年寄りとの交流など、地域資源を活用しています 散歩では近隣にある複数の公園を利用しており、遊具の種類や園からの距離などを考慮して年齢に合わせた散歩先を選定し、子どもたちが伸び伸びと体を動かすことができる機会を確保しています。散歩の際は近隣の住民や商店の人と挨拶を交わすなど、子どもたちは地域の人に見守られながら健やかに育っています。クリスマスの時期には、5歳児が近隣の高齢者施設を訪問して、歌や運動会で行った遊戯を披露するなど交流し、施設の高齢者から喜ばれています。 公園掃除を地域の人と行うなど、地域と一緒に育っていける環境を目指しています 近隣の公園の掃除活動には、5歳児クラスが毎年参加して地域の人との触れ合いを通して、地域に対する愛着や感謝を学べる機会にしています。お店屋さんごっこや園で開催する観劇会に、家庭的保育者(保育ママ)を招待して一緒に行事を楽しんでいます。園見学の際には、入園に関する質問のみではなく、子どもや家庭についての悩みも相談してもらえるよう働きかけをしています。今後は、地域との交流の機会をもう少し増やしていくことで園の資源や人材を地域に還元していき、地域に根差した園として発展していくことを目指しています。			

調査対象	保育園を利用している103世帯を対象に調査を実施しました。在園児は122名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。		
調査方法	アンケート調査は無記名方式で、配付は施設を通じて利用者へ手渡し、回収は利用者から直接評価機関へ郵送する方法により実施しました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、施設に報告しました。		
利用者総数	122		
利用者家族総数(世帯)	103		
共通評価項目による調査対象者数	103		
共通評価項目による調査の有効回答者数	57		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	55.3		

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が29人(50.9%)、「満足」が26人(45.6%)で「満足」以上の回答は合計55人(96.5%)でした。

自由意見には、「子どもが毎日楽しく通えているのは、先生や園での対応が良いからだと感じています」「健やかに育ててくださり、感謝しかありません」「担任の先生はもちろんのこと、朝、夕保育で関わるのみの先生も、子どものことをよく見ていてくれていると感じます」「保育士の人数が多いです」「長年の運営で培われたイベントや日々の遊びや教育、先生方の体制がしっかりしています」「0～5歳児までとても仲良しで、名前を呼ぶなどしてくれます」「広い園庭や、きれいに整えられた教室など、設備が良いです」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」で98.2%、「提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか」「子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか」「施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか」他3項目で93.0%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	56	1	0	0
「はい」が98.2%、「どちらともいえない」が1.8%でした。 自由意見には、「先生の行動や発言をよく真似して、ボキャブラリーが増えたと思います」「園での集団生活は、子どもの成長にとても有益となっていると感じています」「書道などの取り組みは、非常に良いと感じます」「先生方の指導や、友だちとの関わり中で、家ではできない経験をたくさんさせてもらい、子どもも成長していると思います」「タオルを絞る、お昼寝時に服をたたむなど、日常生活に必要なことを教えてくれます」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	51	6	0	0
「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が10.5%でした。 自由意見には、「食具の使い方やひらがななど、ただの勉強ではなく、興味を引くようなアプローチをいただいています」「行事が豊富で、子どもたちを楽しませてくれています」「成長に合わせた遊びや、季節感のあるイベントを行ってもらえるので、子どもとても楽しそうです」「いろいろなおもちゃが揃っています」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	53	4	0	0
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が7.0%でした。 自由意見には、「成長に合わせた季節感のある献立になっていて、自宅での食卓の参考にさせてもらっています」「給食はいつもおかわりです。メニューを見ても、いろいろと工夫をされている物ばかりです」「よくおかわりをしていて、おいしくいただいている様子です」「給食はおいしいようで、満足しています」「おやつに、甘くないものも出してくれるところがよいです」「給食、おやつが専門職員によって、毎日作られています」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	49	8	0	0
「はい」が86.0%、「どちらともいえない」が14.0%でした。 自由意見には、「園外の活動は決まった場所に行くようですが、園庭が広く、安全な中で戸外活動を楽しめています」「コロナ禍の影響で機会が少なかったですが、本来予定されていたイベントとしては、さまざまなものがありました」などの声がありました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	50	5	0	2
「はい」が87.7%、「どちらともいえない」が8.8%、「無回答・非該当」が3.5%でした。 自由意見には、「急な残業などで迎えが遅れる時も、柔軟に対応をして下さるので助かります」「急な延長や土曜保育にも、柔軟に対応してくれます」「当日に口頭で伝えたり、お迎えの人や時間が変わっても、対応をしていただけると聞きました」「保育時間を変更したことがないので、わかりません」などの声がありました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	45	11	1	0
「はい」が78.9%、「どちらともいえない」が19.3%、「いいえ」が1.8%でした。 自由意見には、「安全にしっかりと配慮をされており、メール配信などで情報提供をしてくれます」「セキュリティはしっかりしていると思います」などの声がありました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	46	9	2	0
「はい」が80.7%、「どちらともいえない」が15.8%、「いいえ」が3.5%でした。 自由意見には、「参観日は終日見学可能なので、ありがたいです」などの声がありました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	53	4	0	0
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が7.0%でした。 自由意見には、「連絡帳にも細かく記入をしてくれ、お迎えの時などにも、子どものちょっとした出来事を教えてください」「不安なことや育児の悩みなども相談しやすく、親身になって話を聞いてくださるため、感謝しています」「子どもの成長を、一緒に見守ってくれている安心感があります」「担任の先生たちとはコミュニケーションも取りやすく、安心してお任せできる環境です」「ベテランの先生がたくさんいるので、安心感があります」などの声がありました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	53	3	1	0
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が5.3%、「いいえ」が1.8%でした。 自由意見には、「古い建物ですが、清潔に管理されています」「施設が古いものの、掃除はしていると感じます」などの声がありました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	51	6	0	0
「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が10.5%でした。 自由意見には、「どの先生も、きちんと挨拶をしてくださいます」「朝や帰り、先生たちとすれ違った時に、必ず挨拶をしてくれます」「先生方が皆さん優しく親切だと思います」「先生方の雰囲気がとても良く、安心して預ける事ができています」「担任の先生以外の先生も、子どもの事をよく分かってくれています。優しく、温かい先生方ばかりで、安心して子どもを預けられます」「職員の方々がいねいで、責任感があります」などの声がありました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	53	2	1	1
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が3.5%、「いいえ」が1.8%、「無回答・非該当」が1.8%でした。 自由意見には、「ぶつかったら冷やしてくれます。発熱時はすぐに連絡をくれます」などの声がありました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	45	9	0	3
「はい」が78.9%、「どちらともいえない」が15.8%、「無回答・非該当」が5.3%でした。 自由意見には、「子ども同士のトラブルや子どもの悩みを相談したら、改めて保育園での行動に注視してくれ、報告もしていただきました」「まだトラブルが発生していないので、不明です」などの声がありました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	53	4	0	0
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が7.0%でした。 自由意見には、「先生が子どもと信頼関係を築いています」「保育士の子どもたちへの接し方も、愛情を感じます」などの声がありました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	53	4	0	0
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が7.0%でした。 自由意見には、「個別の相談ごとは、教室の隅などでしてくれる配慮があります」などの声がありました。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	48	7	2	0
「はい」が84.2%、「どちらともいえない」が12.3%、「いいえ」が3.5%でした。 自由意見には、「いつも細かく保育園での出来事を書いてくださいます」「連絡帳のコメントはいつもびっしり、わかりやすく書いてくれます」「乳児クラスは園児ごとの連絡帳で、幼児クラスはホワイトボードで、その日の出来事を教えてもらえます」などの声がありました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	43	10	0	4
「はい」が75.4%、「どちらともいえない」が17.5%、「無回答・非該当」が7.0%でした。 自由意見には、「個別の相談にも、まじめに対応をしてくださいました」「保育士に伝えたが、きちんと対応をしてもらえなかったので、経営層に伝えたら、きちんと対応をもらえました」「困り事があった時も、丁寧に対応をしてくださいます」「不満を伝えたことがないため、わかりません」などの声がありました。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	34	15	5	3
「はい」が59.6%、「どちらともいえない」が26.3%、「いいえ」が8.8%、「無回答・非該当」が5.3%でした。 自由意見には、「表示されています」「ホームページには書いてありました」などの声がありました。 その一方で、「聞いた事はありません」という意見もありました。				

株式会社 学研データサービス
(福祉サービス第三者評価機関)

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-11-8
TEL03-5436-8191 FAX03-5487-8810

●評価機関認証

東京都福祉サービス第三者評価機関認証
埼玉県福祉サービス第三者評価機関認証
千葉県福祉サービス第三者評価機関認証
神奈川県福祉サービス第三者評価機関認証
社会的養護関係施設第三者評価機関認証